



**魚を見極める！**  
私が確かな目で仕入れています！

**佐々木鮮魚店**  
(にかほ市象潟町字鳥の海6番地5)  
時間：5:00～19:00  
定休日：不定休  
問合先：☎43-4585



**応募方法** ハガキ、FAX、QR（申し込みフォーム）  
**記入事項** 発行号、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、『広報にかほ』への意見・感想等を記入  
**応募期限** 9月25日（金）  
**応募先** 〒018-0192 にかほ市象潟町字浜ノ田1 にかほ市役所「広報にかほプレゼント係」  
FAX 0184-62-9013 QRコード

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

毎度たくさんのご応募ありがとうございます。また、当選された方々からも御礼や広報にかほへのご意見をいただき重ねて感謝申し上げます。さて、今回の千客万来にか本舗は象潟町鳥の海に店舗を構えるマルシヨウこと佐々木鮮魚店さんです。漁師だった父の背中を見て育った店主の佐々木正一さんが酒田市の魚屋で3年間の修行を経て昭和55年に開業。現在、奥さんと2人でお店を切り盛りしています。普段、店内では正一さんが仕入れた鮮魚の小売りや日用品の販売などを行っています。昔は冠婚葬祭など、さまざまな場面で利用が

あったが、最近はずいぶん減ってきた」と語る正一さん。それでも、週2回の移動販売や商工会の出前商店街など、地域の人々との触れ合いを大切にしています。今回、佐々木鮮魚店さんから「旬の海鮮詰め合わせ」を3名様にプレゼント！大人数での仕出しのほか、職場での昼食には仕出し弁当も配達していますので、この機会にぜひご利用ください。



※写真はイメージです。季節に応じた鮮魚・海産物の詰め合わせになります。



**千客万来にか本舗**

旬の海鮮詰め合わせ  
3名様にプレゼント！

広報で伝える市内店舗の魅力、商工会加盟店の紹介と人気商品の読者プレゼントコーナー



# 東京オリンピック・パラリンピック ホストタウン計画

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、全国の自治体が大会参加国、地域の選手を受け入れ、交流する機会を作る「ホストタウン事業」に取り組んでいます。本市では、国から紹介された11カ国の未登録国からホストタウン提携の可能性を探り、「リベリア共和国」との登録を計画しています。リベリアの選手や国民の応援・交流を通じ、SDGsについてできることを考え行動しましょう。

☎ スポーツ振興課 ☎ 33-8855

## ▶参加者募集① 「リベリア応援！メッセージ動画出演者募集」

ホストタウン候補のリベリア共和国との交流機運を高める取り組みの一つとして、出場候補選手や国民の方々を応援する動画の出演者（団体）を募集します。

例えば「頑張ろう！」「応援しています！」などのボードを持って一言メッセージを話します。1人（団体）30秒程度撮影し、5秒程度に編集されます。完成動画は、オリパラホストタウンサイトやYouTubeにアップし、リベリア共和国にも発信予定です。

協力 仁賀保高等学校 情報メディア科  
申込期限 9月15日（火）

## リベリア共和国を知ろう！

8月4日、5日の両日リベリア共和国を知るための講演会が、仁賀保高校と象潟小学校で行われました。象潟小学校で行われた講演会では、リベリア共和国出身で秋田市在住のステーブンスさん家族と友達のブルキナファソ出身のジオフリーさんが講師となりリベリア共和国を紹介。初めて見る知らない国に興味を持った児童たちはたくさん質問をしていました。



仁賀保高等学校で行われた講演会  
太鼓を使って自国の音楽を披露♪

## ▶参加者募集② 「リベリア国歌を学ぼう」

オンライン講座によりリベリア共和国の国歌を学びます。国歌動画を届け応援の気持ちを伝えます。

日時 9月28日（月）10:00～11:00 ※1回目  
会場 象潟体育館  
募集人数 レッスン受講者は3名まで。見学可。日程が合わない方はZOOM録画を提供します。

レッスン内容  
1回目…メロディの音取り練習、抑揚の付け方など  
2回目…1回目の復習と総仕上げ、質疑応答  
曲名「AII Hail Liberia Hail!」万歳、リベリア



## 鳥海山・飛島ジオパークリレーコラム ～日本海と大地がつくる水と命の循環～ vol.69

### 『芭蕉、一茶、子規が目指した象潟』



にかほ市教育委員会  
教育次長 齋藤一樹

象潟は昔、大小百前後の島を浮かべた文字どおりの潟（入り江）で、平安時代から和歌に詠まれてきた景勝地でありました。三大歌集の一つ「新古今和歌集」にも象潟を詠んだ歌が登場します。

松尾芭蕉の「おくのほそ道」の旅は歌に詠まれてきた名所（歌枕）を訪ねる旅であり、中でも敬愛する漂泊の歌人・能因や西行が歌に詠んだとされる象潟は目的地の一つでした。芭蕉が旅に出た1689年は西行の五百年忌にあたっています。

芭蕉が「おくのほそ道」で、名文と名句によって象潟を紹介すると、今度は芭蕉の足跡をたどって多くの文人たちが訪れるようになりました。中でも有名なのが小林一茶です。芭蕉が訪れたちよ

うど百年後の1789年に象潟を訪れています。

1804年に象潟は地震で陸になりましたが、それでも象潟を訪れる文人たちが絶えることはありませんでした。芭蕉二百年忌に当たる1893年には正岡子規が象潟を訪れました。子規は象潟からさらに北上し、八郎潟まで足を伸ばしています。当時まだ潟であった八郎潟に象潟の面影を求めたのかもしれない。その後、大曲駅前の旅館から親友の夏目漱石にはがきを書いており、そのはがきには象潟を詠んだ句を添えています。

現在、水田に浮かぶ島々には、鳥海山の噴火や地震のジオの記録だけでなく、文人たちの想いやエピソードをも秘めているのです。



▲現在、島々は水田に浮かび、往時をしのばせています